

新規事業採択時評価結果(平成19年度新規事業化箇所)

担当課: 関東地方整備局都市整備課
 担当課長名: 新屋千樹

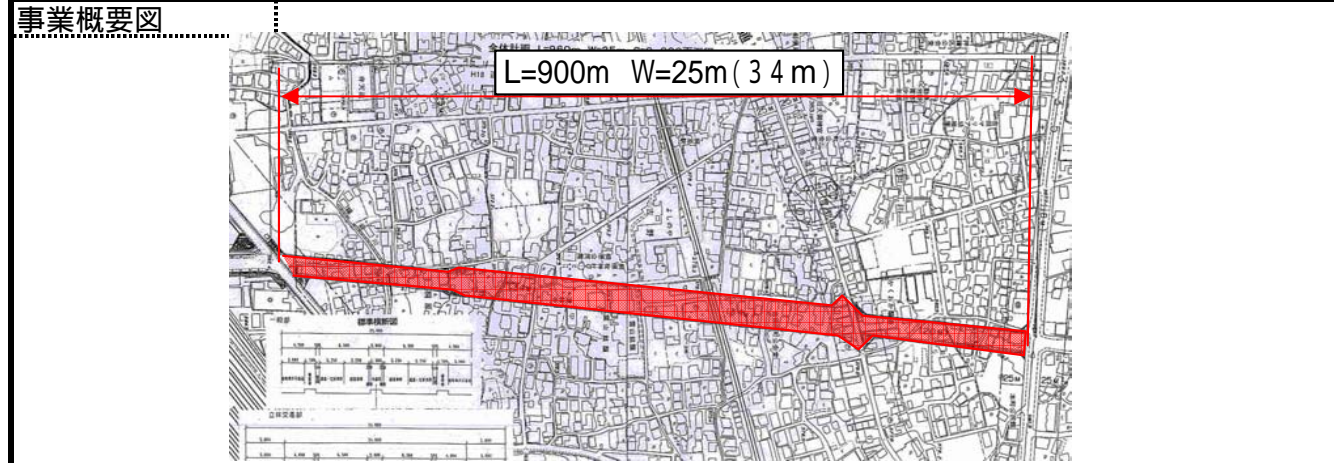
事業の概要

事業名	たかだわかつきせん 高田若槻線	事業区分	街路	事業主体	長野県
起終点	ながのけんながのし きりばら よしだ 長野県長野市桐原 ~ 吉田			延長	0.9km

事業概要
 当路線は、長野市中心部と北部町村を結ぶ放射状道路でもあり、また、長野市街地を南北に連絡する中環状道路一部として、通過交通の市街地流入を抑制する機能も併せ持つ主要幹線道路である。当該区間が未整備であるため、長野市街地を南北に連絡する道路において渋滞を引き起こしている。

事業の目的、必要性
 当該区間を整備することにより、長野市内の渋滞緩和を図るとともに、長野都市計画道路網の充実させるものである。併せて、歩道及び植樹帯を整備することにより、安全で良好な道路空間を形成し、快適な都市づくりに寄与するものである。

全体の事業費	90 億円	計画交通量	12,900 台/日
--------	-------	-------	------------



関係する地方公共団体等の意見
 長野市長・・・事業計画について同意
 長野電鉄・・・新設立体について同意

事業採択の前提条件
 B/Cが2.1と便益が費用を上回っている
 関係者が事業に同意しており、円滑な事業執行の環境が整っている

費用対便益	B/C	2.1	総費用: 61 億円 (事業費: 60億円 維持管理費: 0.70億円)	総便益: 127 億円 (走行時間短縮便益: 122億円 走行費用減少便益: 4.0億円 交通事故減少便益: 0.70億円)	基準年: 平成 18 年
	事業の影響	評価項目	評価	根拠	
自動車や歩行者への影響	渋滞対策		【渋滞損失時間の改善】 17,321.4千人・時間/年 17,077.0千人・時間/年 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】 ボトルネック踏切の緩和		
	事故対策		【死傷事故率】 【その他の特徴】 近隣踏切からの交通量転化により踏切事故の減少		
	歩行空間		幅員拡張により、歩行空間が確保され歩行者の安全性が確保される		
社会全体への影響	住民生活		バス路線となるが見込まれており、利便性が向上 市役所等の公共施設への利便性が向上		
	地域経済		放射環状道路の整備により中心市街地の活性化に寄与 都市計画道路密度の向上		
	災害		緊急輸送道路になることがみこまれる 延焼遮断帯の確保		
	環境		CO2排出削減量約169.1t/年 NOx排出削減量約0.0t/年 SPM排出削減量約0.1t/年		
	地域社会		日常活動圏中心都市へのアクセス向上 交通不能区間の解消		
事業実施環境			環状道路の整備 都市計画道路整備プログラムに位置付け		

採択の理由
 費用便益比が2.1と、便益が費用を上回っているとともに、関係者が事業に同意していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、長野市の中環状道路と外環状道路を連絡し、合併した豊野地区や飯綱町へと続く放射環状道路であり、都市交通網の機能を発揮するために必要不可欠な道路で、道路の必要性・効果は高いと考えられる。
 以上より、本事業を採択した。